

リウマチ・膠原病系〈E3〉

オーガナイザー

リウマチ・膠原病科学 教授 藤井 隆夫

I 一般学習目標

全身性自己免疫疾患であるリウマチ・膠原病の疾患概念を理解する。まず特徴的な臨床症状、自己抗体を含めた検査異常を十分理解する。さらに膠原病の治療においては、副腎皮質ステロイドなどの抗炎症薬や、免疫抑制薬（生物学的製剤含む）が使用されるが、なぜその治療法を選択するのか、病因と病態に基づいた治療薬の選択に関しても理解できるようにする。

II 個別学習目標

1) 総論

1. 診断学

膠原病では「分類のための基準」が国際的に定められている疾患が多いが、最新の基準を示し、その意義や内容についての概略を説明できる。また膠原病を疑う臨床症状を示すことができる。

2. 治療学

膠原病では「抗炎症療法」「免疫抑制療法」などの薬物療法が中心となる。関節リウマチの治療に生物学的製剤が導入され、治療の目標が大きく変化した。その新しい治療目標を説明し、現在いかなる内科的治療薬が存在しており、かついかなる副作用に留意しないといけないかを説明できる。

2) 各論

1. 関節リウマチ

破壊性持続性関節炎をきたす代表的な全身性自己免疫疾患である。医師として診療する以上必ず遭遇する疾患であるため、その鑑別疾患や診断法、また標準的治療について説明できるようにする。

2. 全身性エリテマトーデス

代表的な膠原病であり、比較的頻度も高い。多彩な症状が認められるが、その臨床症状と重症度に合わせて行うべき治療法を説明できるようにする。

3. 強皮症

皮膚硬化に加えて、しばしば重篤な内臓病変をおこす。まれな疾患ではあるが、その概念と最新の治療法を説明できるようにする。

4. 多発性筋炎/皮膚筋炎

筋症状のみでなく合併が多い急性間質性肺炎についてもその病態・治療法を把握できるようにする。

5. 血管炎症候群

多種類の血管炎症候群を、最新の分類にしたがって特徴を説明でき、かつその診断と治療法を把握できるようにする。

6. 混合性結合組織病

本疾患が提案された背景、またその概念を正確に理解し、重複症候群とはいかなる点が異なるかを説明できるようにする。

7. シェーグレン症候群

他の膠原病に合併する続発性の場合が多いが、乾燥症状（腺症状）のみでなく間質性肺炎、間質性腎炎などの内臓病変（腺外症状）、また悪性リンパ腫の合併などについても知っておく必要がある。

8. ベーチェット病

欧米では少ない疾患であるが、本邦ではしばしば遭遇する。自己炎症疾患として注目されているが、その臨床症状と病態、治療法について説明できるようにする。

9. その他の全身性リウマチ性疾患

血栓症状を主徴とする抗リン脂質抗体症候群や、不明熱（Fever of Unknown Origin, FUO）の原因となりやすい成人発症スティル病などについても知っておくようにする。

III 講義項目と担当者

1. 膠原病総論	リウマチ・膠原病科	(藤井)
2. 関節リウマチ	リウマチ・膠原病科	(藤井)
3. 全身性エリテマトーデス・抗リン脂質抗体症候群	リウマチ・膠原病科	(湯川)
4. 強皮症および類縁疾患	皮膚科	(池田)
5. 多発性筋炎/皮膚筋炎	リウマチ・膠原病科	(湯川)
6. 血管炎症候群	リウマチ・膠原病科	(藤井)
7. 混合性結合組織病	リウマチ・膠原病科	(前島)
8. シェーグレン症候群	リウマチ・膠原病科	(前島)
9. ベーチェット病	リウマチ・膠原病科	(湯川)
10. その他の全身性リウマチ性疾患	リウマチ・膠原病科	(藤井)

IV 学習および教育方法

講義形式とするが、一部の授業では実際の症例を紹介する臨床講義の形式をとることがある。

V 評価方法

各回ごとに確認テストを行い出席点とする。当科では出席点を重視しているが、総括試験を最後の講義の時間内に行い、出席点と合計して進級の可否と成績点を決定する。

VI 推薦参考書

(1) 和文

リウマチ病学テキスト 改訂第2版

(日本リウマチ学会生涯教育委員会・日本リウマチ財団教育研修委員会 編)

(2) 英文 (参考)

1. Rheumatology 6th edition (Hochenberg MC, Silman AJ, Smolen JS, Weinblatt ME, Weisman MH, eds, 2015, Elsevier, Philadelphia)

2. Dubois' lupus erythematosus and related syndromes (Wallace DJ, Hahn BH, eds, 2013, Elsevier, Philadelphia)

講 義 日 程 表

リウマチ・膠原病系

No.	月日	曜日	時限	項 目	担 当 科	担 当
1	H30.9.7	(金)	2	膠原病総論	リウマチ・膠原病科	藤井 隆夫
2	H30.9.7	(金)	3	関節リウマチ	リウマチ・膠原病科	藤井 隆夫
3	H30.9.14	(金)	2	全身性エリテマトーデス・抗リン脂質抗体症候群	リウマチ・膠原病科	湯川 尚一郎
4	H30.9.21	(金)	4	多発性筋炎/皮膚筋炎・ベーチェット病など	リウマチ・膠原病科	湯川 尚一郎
5	H30.9.21	(金)	5	混合性結合組織病・シェーグレン症候群	リウマチ・膠原病科	前島 悦子
6	H30.10.2	(火)	4	強皮症	皮膚科	池田 高治
7	H30.10.2	(火)	5	血管炎症候群・総括テスト	リウマチ・膠原病科	藤井 隆夫